

# 横須賀水交會

「会長挨拶」

横須賀水交會会長 長崎 嘉徳



会員の皆様には穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。会員皆様のお陰をもちまして横須賀水交會の昨年の活動も順調にかつ勢いをもって推移して参りました。会員数は水交會全国規模で見れば減少の傾向に有りますが横須賀水交會にあつてはやや微増の傾向にあり皆様と共に喜びたいところであります。財団法人水交會は数年来の課題でありました公益法人

化に向けていよいよ本年、正念場を迎える情勢であります。公益法人後も横須賀水交會の事業活動そのものが変わることはなく今までの活動をベースにさらに公益性に目を向けることとなります。会員皆様と共に更なる飛躍を目指して参りたいと思います。

海上自衛隊の隊員の中には今年も年末年始を家族と共に過ごすことなく、遙か南極の極寒の中での活動、またテロの絶えることない国際情勢の中にあつてソマリア沖・アデン湾において緊張の連続の中、テロ・海賊対処行動に当っております。国内にあつては洋上あるいは僻地において二十四時間我が国周辺海域における情報収集、警戒監視の任務についており、国民の一人として枕を高くして新たな年を迎えることが出来たのも彼等の真摯な活動のお陰だと心からの敬意と感謝を

発行 平成23年3月9日  
編集 横須賀水交會事務局

申し上げます。

さて、我が国周辺の安全保障環境は引き続き厳しい状況にあり、特に活動を活発化させている中国海軍、沖縄・尖閣諸島海域での中国漁船衝突事件、北方領土へのロシア・メドベージェフ大統領の訪問、北朝鮮の魚雷攻撃による韓国哨戒艦の爆沈、延坪島への攻撃等に見られる日本周辺の情勢は緊迫の度合いを増しているのではないだろうか。

このことは鳩山、菅両民主党政権の腰が定まらない安全保障政策に起因しており、周辺国の「冒険心」を助長させているという側面は否定できません。さらに沖縄普天間基地問題に端を発した日米同盟の揺らぎに起因しているところ大であることは周知のところであります。日米同盟の深化と共に自存自立の防衛体制に一日でも早く立向かう事を切に願うものであります。

日本人の内面に目を向けたときグローバル化の打ち寄せる波とともに欧米至上主義に翻弄され、本来

## 横須賀水交會主要行事予定

本年7月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。

なお、最新情報は横須賀水交會ホームページでご確認下さい。

### 1 幹事会

(1) 期日 4月1日(金)

(2) 場所 大会議室

(3) 会議後、懇親会

### 2 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 5月10日(火)

(2) 場所 吉倉岸壁

### 3 馬門山墓地墓前祭

(1) 期日 5月14日(土)

(2) 場所 市営馬門山墓地

### 4 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(木)

(2) 場所 ヴェルニー公園

### 5 23年度総会・講演・懇親会

(1) 期日 6月3日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

日本人に培われてきた精神が薄らぎ全て損か得かで価値判断をする傾向が強くなってきたと嘆いていた矢先、昨年末来タイガーマスクなるヒーローが各地に現れ私達の心

を暖かくしてくれましたところであり  
ます。

「人間は受けるだけでなく、他者に与えてこそ、初めて人間になり満たされ幸福を実感する。この心の流れを止めている限り、泥沼の国家経営は続く事になるだろう。働きたくない者は食うべからずである。現在は働きたくない者でも食べさせてもらうのが当然の権利と言いつける時代になった。」と曾野綾子氏は「年の始めに記す」で嘆いておられます。水交會会員の皆様方に誇りを感じるのは水交會活動を通じ正にこの他者に与える精神を持っている点にあるのであります。

馬齢を重ね年々歳々傲慢になって来ているのではないかと危惧する一人ですが「足らざるを嘆くのではなく足るを知る」心で、また偉大なものへの畏怖、畏敬の念を抱き続けることにより謙虚な人生を送って行ければと辛卯の年の始めに心に誓ったところであります。

横須賀水交會会員のご多幸を祈念しますと共に会への暖かいご支援を引き続きお願い申し上げます。挨拶と致します。

「自衛艦隊司令官挨拶」

海将 倉本 憲一



横須賀水交會の皆様には、横須賀地区の部隊や機関をはじめとする海上自衛隊の諸活動に対して平素から暖かいご支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、近年、国際的な安全保障環境は大きく変化し、伝統的な国家間の問題のみならず、新たな脅威や多様な事態など、国際社会は様々な課題に直面しています。特に、北朝鮮を巡っては、ミサイルや核開発の問題のみならず、昨年3月の韓国哨戒艦の沈没事案、昨年11月の韓国延坪島への砲撃事案などが生起しています。

一方、中国は、国防費の増大と装

備の近代化を背景に周辺海域での艦艇活動や海洋資源開発を活発化させています。特に、昨年来、尖閣諸島沖における中国漁船の保安庁巡視船への衝突事案など、予断を許さない情勢が継続しています。また、ソマリア沖では、海賊行為が多発しており、海洋の秩序に対する重大な脅威となっています。また、海賊対処行動で活動の拠点となっているジブチやバーレーン等において、チュニジアの政変に端を発するデモ等が北アフリカや中東の各国に拡がり、予断を許さない状況となっています。

このような情勢下、自衛艦隊は、従来からの任務である我が国周辺海域の警戒監視を着実に実施するとともに、平成21年からソマリア沖アデン湾において海賊行為への対処行動に従事しています。艦艇部隊の通算護衛回数は2月21日までに221回1,648隻の護衛を実施、航空部隊の任務飛行も412回に上がりました。これらの活動は、海洋国家としての我が国の国益を守るのみならず、我が国が国際的な責任を果たす一助になっていると

確信しています。今年は、ジブチに航空任務部隊の新活動拠点が開設し、より一層効果的、効率的な任務の遂行が可能になるものと大きな期待を寄せています。

そのほか、昨年は、パキスタンにおける洪水被害に際して国際緊急援助海上輸送隊として第1輸送隊を派遣し、陸上自衛隊と協同して救援に貢献したことに加え、パシフィックパートナーシップ2010に参加し、米海軍とともに活動し、東南アジア諸国にプレゼンスを示し相互理解増進に寄与するなど、海上自衛隊の活動機会は、多種多様に増大しています。

自衛艦隊は、「海上防衛」と「海上交通の安全確保」が我々に負託された最大の使命であるという認識の下、何時如何なる任務が与えられても、我が国の防衛の中核戦力として確固たる自信と誇りをもって、整齐と任務の遂行に邁進していく所存です。

昨年12月、新たな「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」が策定されました。厳しい財政事情ではありますが、大きく変貌を遂げ

る環境に適切に対応するために、自衛艦隊が諸先輩から財産として受け継ぐ即応態勢と精強に、より一層磨きをかけるとともに柔軟な作戦運用能力が求められています。

このためには、現在推進されている「海上自衛隊抜本的改革」の趣旨に基づき、柔軟な発想と勇気をもって、変えるべきものは大胆に変え、守るべきところはしっかりと守ることが必要と考えています。海上自衛隊の主力作戦部隊である自衛艦隊は、約2万8千人の隊員全ての力を結集し、各級指揮官自らが先頭に立つて指導力を発揮して作戦部隊としてのスピリッツをもって、「心身ともに健全で足腰の強いプロ集団たる自衛艦隊」を築いてまいります。

自衛艦隊は、他自衛隊はもとより、米海軍第7艦隊と普段から緊密に連携し、精強・即応をもって任務の完遂に努め、全隊員一丸となって国民の負託に伝えていく所存です。

横須賀水交會の皆様には、海上自衛隊に対する変わらぬご支援のほど、今後ともよろしくお願いいたします。横須賀水交會の皆様の益々のご健勝とご多幸並びに横須賀水交

會の更なるご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

### 防衛諸団体合同 新年賀詞交歓會の開催

横須賀地区の防衛諸団体共催による恒例の新年賀詞交歓會が、1月15日(土)の午後、平成町にある横須賀商工会議所一階大ホールにおいて開催された。

この合同賀詞交歓會は、防衛関連10団体(横須賀防衛協會、横須賀水交會、隊友會横須賀支部、財団法人三笠保存會、横須賀曹友會、横須賀自衛官募集相談員會、桜遊會、農洋會、三浦半島地区自衛隊父兄會、横須賀海交會)が近傍の自衛隊の主要幹部、前任伍長等を招待して新春の賀詞を交換するとともに、陸・海・空自衛隊を激励し、あわせて、諸団体・會員相互の親睦を図ることを目的に例年実施しているものである。本年は横須賀水交會が主幹事として會の計画、運営にあたった。

当日は晴天に恵まれ、来賓を含め約300名もの多数の参加を得て、盛大に行われた。式典は、横須賀



水交會有働幹事の司會進行により、国歌斉唱、共催の防衛関連団体会長等の紹介、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協會会長の挨拶、来賓を代表して吉田横須賀市長及び高嶋横須賀地方総監の祝辞、来賓の紹介、祝電披露、乾杯、懇談の順に進められた。

吉田横須賀市長の祝辞では、逸見岸壁の建設及び自衛隊・米海軍と市民との総合防災訓練などにより、市民の安全に大きな寄与が出来たとに対しての感謝が述べられた。

自衛隊代表の高嶋総監からは、昨年の日米安保改訂50周年記念を終えて、今後は将来の世代のために、次の50年を日米安保の深化のために両国が発展することを祈念すると共に、横須賀の歴史に触れ、3自衛隊・米海軍・防衛大学校が、横須賀市と共に発展することを、また、加藤友三郎海軍大将の言葉を引用し、防衛を全うするために、市民及び防衛諸団体の支援が不可欠であることを強調された。

来賓の紹介においては、出席いただいた国会議員お二人からそれぞれ短いご挨拶を頂いた。民主党横糸衆議院議員からは、民主党の防衛政策に関連し、昨年のケガを今年は功名に変えて、防衛議論を活発化するとの発言がなされた。また、自民党小泉衆議院議員からは、昨年は、日米安保及び自前の防衛力の重要性が国民に認識された年であったこと、に言及し、国会の議論を通じて、安全保障の確保に努力するとの言葉があった。

鏡開きは、「菊水」「元帥」の四斗樽を用いて、吉田横須賀市長、五百旗頭防衛大学校長、倉本自衛艦隊司

令官、バスカーク7艦隊司令官、レン在日米海軍司令官、小山防衛協会会長など12名により、「1、2、3」の掛け声で、力強く行われた。



防衛大学校幹事宮下陸将の発声による乾杯の後、懇談は樽酒のお陰もあり、大いに盛り上がり、現役、会員等お互いの親睦を十分に図ることが出来た。

最後は自衛艦隊司令官倉本海将の中締めと航空自衛隊第2高射隊長芳之内2等空佐の万歳三唱で、惜しみつつ新春賀詞交歓会を終えた。

(岩永幹事 記)

「横須賀市議会だより」  
市議会議員・幹事 木下 憲司



昨今のわが国の社会情勢は、ひとことと言うと、不透明感、不安感に覆われていると感じます。昨年を振り返りますと、普天間基地の移設問題、尖閣沖の中国漁船領海侵犯事件、北朝鮮の砲撃事件等々、わが国の安全を揺るがす大問題が生起し、未だにその解決の方向性すら見えません。一昨年の総選挙以来、福祉や社会保障が政治の俎上に載ってきました。しかし、国民はこれらの事件と政府のその対応を見て、国家の安全保障という基盤の上に経済も社会保障も存在するという、厳然たる事実に覚醒しました。そしてこのことが政権与党不信につながり、国民の不安感を醸成しています。

このような世情を視るにつけ、横須賀がわが国の防衛に果たす役割・意味をつくづく感じた1年でした。横須賀はわが国安全保障のフロントランナーです。横須賀の防衛基盤の安定は、わが国の安全保障に直結しています。この事実を忘れることなく、自衛隊OBとして、軸足を定めて議員活動に邁進する所存です。来る4月末の統一地方選挙を待って、一期目4年の任期を終わります。市議会に自衛隊OBの存在は極めて重要です。来期も皆様から託された思いに応えて、精一杯努めたいと願っております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【投稿】

中国・西安の「未来挑戦」

会員 佐野 恭子



北京から飛来したVIPが開会の挨拶をした。私たちは舞台から50m程離れた白線の後ろに並んで聞いた。50mの距離はVIPを襲撃から守るためと思った。ところが演説中いきなり携帯電話を耳に当て、



昨秋10月、中国の西安交通大学に夫(慶應義塾大学工学部名誉教授、情報処理専攻)と国家自然科学基金委員会主催の「重大研究計画・知能車未来挑戦」に招かれた。全華10チームの無人車による走行試合が広大なキャンパスを持つ長安大学を借りて行われた。日差しが暑い中、野外コンサート様の華美な舞台で「トヨタ杯」の看板(写真)を背に

この演壇と私たちの間の広々とした無人の地帯を大声で商談しながら悠然と突っ切って行く男がいた。エネルギーあふれた、わめくような話し声。誰にも咎められずに、大声で商談を続け、視野から消えた。このような礼儀も法もない場面を滞在中何度か見た。貧富の差が極めて激しく、目の前の億万長者まで一気に跳ね上がりたいたい膨大な人々。エネルギーで地響きがするような西安であった。VIPと私たちを隔てる、白線の上に警察学校の学生と教官が並んだのだが、彼らは一直線には並べずに何度もカメラマンがどやしつけて掲載用写真を撮った。私が市内路上で見た軍人・警察官は痩せており、やる気もエネルギーにも欠ける感じがした。さて「知能車未来挑戦」は無人車にコンピュータを搭載してGPSを使わずに道路標識を読み取らせゴールするもの。初日は無人車自身が道路標識を読解するテスト。見ていた夫は「精華大チームは85%読解しているが西安大は3割か」確かに中国の大学NO1は精華大学だが、西安交通大も中国教育部に直属する7重点大学の

1校、教授と助教授2,000人、在校生32,700、博士・修士課程は11,000人。中国中西部で唯一、世界的に通用する大学を目指して建設された工学系大学である。全寮制。慶應大学・大阪大学と姉妹校で、慶應大学にとっては情報電気電子分野でのアジア唯一の連携大学である。学長の鄭南宇博士は苦学して1980年代に慶應大学工学部で博士号を取り、辛景民教授は佐野が博士号を授与した。彼の日本の17年、私たちが身元保証人だった。さて昼食。教授達は長安大の食堂の2階の貴賓室で食べた。テーブルには、3重に積み上げて回転部分に乗り切れるだけ20種類以上の料理が載っている。1卓12人ほど。笑ってワイワイ食べる。日本語のできる教授が料理を勧めてくれる。誰もがプラスチックの長い箸で、取ってそのまま口に入れる。そのために箸が長いとは。すべての料理は初めて見たもの、すべてが予想と違う味だった。大鉢にうどんが出て、お茶碗もついて・・・わくわく・・・けれどひどく酸っぱい。大阪大学に留学していた教授が「吃驚したでしょう・・・

あはは」コーンスープはまるでお汁粉、6、7cmに切つてある太い骨に焦げた肉が纏わりついているのは羊肉。50cm程のあんかけの魚1匹を、勝手に肉だけむしりつつ食べる。最後に白米が出た。大学の食堂の床はまず、どこもびしょぬれ。参ったのはトイレだ。どこでも激しく匂いたち、ホテル以外に備え付けペーパーはない。便器は同じまっぴらなしやがみ式で足の滑らないギザギザ、びしょぬれの床、バスケットが置いてありそこに、使ったちり紙、生理用品を捨てる。稀に洋式便器があっても、それは格好のモツ置き場である。

さて試合の2日目。「排日運動が心配なので、今日ご夫妻は南教授と博物館を見学して下さい。」近くの博物館に行つた。1956年その地の沢山の遺跡が発掘された。その時の写真が展示され、大勢の近隣住民が写っている。私自身がその中にいた。おかつぱ頭に寒そうなぼろの着膨れ。ズボンにズック、手袋のない手をポケットに入れ子供たちは身を寄せ合っている。南教授が「この人たちは自分の耕作地を提

供する代わりに写真に残る、という名誉を得たのです。当時写真は大変な名誉でした」さて試合3日目。「排日運動と言つても、彼らは自分の賃金値上げの為にやっているの、日本人には全く心配ない」この日からうんと寒い。標識を読みながらゴールまで4kmを無人で走行する。制限時間30分。美しい秋の木立の長安大キャンパスで車の現れるのを待つが・・・来ない。制限時間を使いきるチームがほとんどでラウンドアバウト(円を描く車道、ヨーロッパでは信号を使わずぐるりと回って違う方向に出る。パリの凱旋門周りのように)ではどこも歩道に乗り上げ、なお動くのでチーム全員が血相変えて走って来て何とか止める。昼休みになると長安大学生がビニール袋に下げたミカンを持って勝手にコースを横切る。大変危険なことだったが、女学生は制止を全く無視し、警備員もそしらぬ顔。陸軍チームはスラローム競技では力を発揮したものの歩道の上をぶつ飛ばして走り、もし学生がいたら、怪我では済まなかった。精華大チームだけラウンドアバウトは回れたのに直

線となるラスト2km、道路脇の白線が読み取れずジグザグ運転になった。このチームは米国から一時帰国した精悍な教授が率いていたが陸軍はパンプスを引つ掛け、髪をなびかせた女性リーダー、西安交通大もハイヒールブーツの若い女性、彼女たちがドアを開けたまま勝手に動きまわる車両を追いかけるのはハラハラした。陸軍チームは迷彩服なのにごく普通の脱げてしまう靴を履いていた。10チームともどこが勝ったかさえ解らないしどろもどろで終わった。米国の人工衛星を打ち落とし、地雷原を軍事行動する場合を想定しての、未来挑戦なのだろうが、それがいかに難しい事かを実感する。優勝は中国科学技術院であった。10チーム10車両のうちトヨタが2台。西安大もトヨタから供与を受けていた。精華大と優勝した科学技術院が使ってくれたのは、息子がエンジン開発に関わった日産エクストレイルだった。今年も10月、この挑戦は続けられる。西安の空気は白濁していた。到着して3日ほど雨が降るまでは、戸外で息をするとタフな私が吐き気のような、不

快感がした。細かい土ぼこりと排気ガスだと思う。雨の後それらはホテルの窓にこびりついた。そんな中を、錆びたリヤカーを溶接したぼろい自転車に練炭を配達して走る。プロパンも都市ガスもない家のためか。碑林の近くに行った。ゴミだらけ汚い道の突き当たりの家は屋根根にビニールシートで雨漏りを防いでいた。近くの家に3個の鳥かごがつるしてあり、鳴き声を競わせる趣味の人が居るのだろう。小鳥に話しかけて鳴き真似をすると小鳥もさえずってくれ、私はしばらくそつと軒先に佇んだ。私と同年代であろう老婆が陽の当る所に座って練炭に大きなやかんを乗せ、お茶を飲んでいた。ほかに何をするでもなく・・・同居の娘らしい人が、食べ残しのそばつゆを道端の雨水溝に投げ捨てた。そこには既に腐った食べ物の残りがこびりついていたので雨水溝を自分の流しにしているのだろう。淡々と人の営みの時間が流れていた。そこに元気なおばさんが自転車に汚れた発泡スチロールを沢山ひもで結んでやって来て、道端に寄せてあった発泡スチロールを自転車に結

えて行った。滞在中、学長の指示で移動する時は元軍人の腕ききお抱えハイヤーが来る。強引なほどの運転だが信号のない交差点ではいきなりフロントグラス一杯に左前方から鼻先にベントツが現れて右後方に去る。中国産の車も走るようになった。タクシーは価格にして40万円ほどの中国車と聞いた。1元(ほぼ「えん」と発音し記号は¥を使う。紙幣に若い毛沢東と壹圓1YUANと印刷してある)は交換レート12円、ただ国内で十分に100円の価値が有る、と気付いたのはタクシーに乗っての実感からだった。とろとろに汚れた50角のお釣りをくればようとした運転手もいた。英語は話さないが、ぼられたという思いはない。深夜、よくホテルの窓から泥まみれのコンクリートミキサー車が飛ばして行くのを見た。30階40階建のマンション工事が盛りだ。けれど重機、クレーンを見る事は少なく、躯体を完成した後は鉄筋の入らない壁をブロックとか大きなレンガほどのものをモルタルで積み上げていく。少しの地震でも、傾きでもあつげなく落下するだろう。

日本の厳しい建築基準からは想像もつかない緩い基準で工事をしていく。建築中の建物には日本では厚手の、折り目のついた防護シートがかかっているが西安で見えたものは、お化け屋敷のような、穴だらけボロボロのもの。40階でも、建物外壁に張り付くように、するすると粗末な板囲いの工所用エレベーターが上がって行った。中国はマンションバブルの為に所有する3軒目のマンションから銀行の融資を受けられないようにすると言う。中国には固定資産税がない。鄭学長でさえ「\*教授は年収と同額の駐車場を手に入れたよ」(それで僅かな台数分であったように思う)と言及するほど現在中国は固定資産にうまみが有る。もし日本のように固定資産税、譲渡所得税(土地の売買代金の課税)、不動産取得税をかつきりと掛ければバブルは続かないだろうが、温家宝首相の家族が脱税を巧みにごまかしたと聞く。エッジの効かないスキーマのようだ。鄭学長が、真剣に「政治家には聖人であることを望む」と言われた時、言葉がなかった。西安における西安交通大の存在

は10万人の雇用を創造していると言われる。辛教授に頼んで授業を見学した。大学院の英語の授業は世界レベルの十分な力が有った。日本語の授業では日本人の教授が「できるだけ大勢の日本語を聞かせたい」と、私に話させた。熱心に聞き入ってくれた。日本語スピーチコンテストが有ると言うので練習に何うと、大阪なまりの女性教員や「あんたの・・」というスピーチ原稿を作らせたり、簡単ではなかった。彼らが日本語を選じたのは、アニメの吹き替えをやって見たいという動機が多かった。西安は、かつて唐の長安と言われた都、西安博物院には、長安の広大な模型が有る。それを見た時、阿倍仲麻呂が「三笠の山にいでし月かな」と望郷を読んだとされるのは違う、彼はこの地で学び、その中で縦横に活躍した世界一の文化、文明を日本に持って帰り伝えたかった、日本人に学ばせてやりたかったのだ、その使命感が命がけで帰国しようとしたのだと思った。涙がこぼれた。言わば自分の為の望郷の感情ではなく、命がけの使命感だったろうと。模型に見る唐の長安は、確かに世

界一と思うほど豪壮だった。

### 護衛艦「しらゆき」横須賀を

#### 定係港として最後の出港

2月7日朝、護衛艦「しらゆき」(艦長：平川 崇2佐、乗組員約150名)は、年次検査のため、修理地玉野(三井造船玉野事業所)へ向けて横須賀(船越)を出港した。同艦は、3月をもって呉を定係港とする転籍が予定されており、横須賀を定係港とする最後の出港ということから見送りが行われた。

高嶋横須賀地方総監、松下護衛艦隊司令官はじめ各級指揮官等のほか、元乗組員や支援業務に携わった



などゆかりのある人たちも含め多くの人々が岸壁に集まった。横須賀水交会としても約10名が参加し、

参列者と共に自衛艦旗小旗を振って見送った。

帽振れの後、汽笛の超長音一声が朝もやの中に響いた出港であった。

「しらゆき」の益々のご活躍とご健闘を祈る。(本多副会長 記)

### 横須賀市賀詞交歓会に参加

1月4日(火) 横須賀アリーナにおいて、市長、市議会議長、商工会議所会頭共催で行われた平成23年横須賀市賀詞交歓会に横須賀水交会として、本多副会長、相澤幹事、木下幹事、増田幹事、大久保幹事が参加した。

国會議員、県議、現役は倉本自衛艦隊司令官、高嶋横須賀地方総監など各部隊指揮官、在日米軍司令官ほか各界から多くの参加者を得て盛大に行われた。

短時間ながら、新年を寿ぎ、横須賀の飛躍を誓い合う有意義な交歓会であった。(本多副会長 記)

### 【特集】

#### 「海軍の碑」について

横須賀水交会では、毎年5月27日の海軍記念日に合せて、横須賀ヴェルニー公園において海軍の碑記念行事を開催している。

「海軍の碑」は、海軍終焉から50年の節目となる平成7年に、全国海軍関係者及び有志から寄せられた浄財により、海軍発祥の地横須賀に建立したことが、碑の建立趣旨に記載されている。

このたび、長崎横須賀水交會会長宛に碑の建立に尽力された相沢氏から、除幕式における関係者の挨拶文が届けられたので、「海軍の碑」建立時の気概等ご理解頂くため、掲載する。なお、紙幅の都合上、代表2件を掲載した。

#### 「横総監祝辞」(海将 佐藤雅)

本日ここに「海軍の碑」除幕式が挙行されるに当り、祝辞を申し述べ、機会を与えられましたことは、海上防衛に携わる私にとりまして、誠に光栄の至りであります。

まずはじめに、海軍創設以来赤心

を以て職務に献身され、国難に際し、ひたすら祖国の安泰と同胞の平穩無事を願い、吾身を顧みることなく、その職に殉ぜられた英霊に対し、心から敬意と哀悼の意を表したいと思えます。

今を去る百有余年前の1853年7月、軍艦4隻を率いたペリー提督が浦賀に來航し、久里浜においてフィルモア大統領の親書を時の幕府の代表に手渡ししましたが、これが大きな契機となつて我が国が鎖国政策を止め、開国に踏み切つたことは御承知のとおりであります。

爾来、列強に追いつくべく政治、外交、経済、軍事等万般にわたり総力を挙げて懸命に近代化に取り組みましたが、その中であつて重要な役割を果たしたのが、海軍でありました。

作家の伊藤正徳氏は、その著書「大海軍を想う」の中で、次のように述べております。『我々の先祖は、信念をもって防衛の国策を立て、忍従と気概とをもってこれを培い、よく「侵されぬ海軍」、主張の裏づけとしての海軍」を作り上げたのである。それを造るまでには、苦心慘

憚というような言葉では到底尽くせない努力の連続であつた。明治初年、国を開いて世界という舞台の末席に列つた時は、日本はまず五等国であつたろう。20余年後に三等国まで成長し、日清戦争に勝ち、ロシアを破つて一等国に昇進し、世界の5大国に位するようになつた有史未曾有の大発展は、海軍を離れて語ることはできない。そして、その海軍は、国民の汗と気概によつて築き上げられたものであつた。大海軍、大艦隊は結局滅びたけれども、私は日本の大海軍の上に日本民族の誇りを見るものである。』正に至言であります。

勿論、海軍が育ち、存分に活躍した時代と現代では国際、国内情勢とも大きく異なつており、比ぶべくもありませんが、海軍が残した有形無形の偉大な遺産は、今後も燦然と輝いております。

海軍の後継者たる海上自衛隊には、海上防衛の重責に加え、新たに国連平和維持活動等の任務が付与されましたが、海軍遺訓及び良き伝統を継承発展させ、国民の負託に堪え得るよう、精強な部隊の練成及び

即応態勢の維持向上に、最善を尽くさねばならないと考えております。当地横須賀には、日本海戦においてロシアバルチック艦隊を打ち破つた東郷連合艦隊の旗艦「三笠」が、その栄光を長く後世に伝えるため、記念艦として大切に保存され、多くの人々に親しまれております。

物的な豊かさの追求に偏重するあまり、民族としての誇り、矜持を放擲したのではないかと思わざるを得ない風潮が見られるのは真に情けなく、残念な限りであります。この「海軍の碑」が「三笠」と共に、日本民族の誇りと国を守ることに大切さについて語りかけることを念じてやみません。

終わりに、海軍発祥の横須賀に「海軍の碑」を建立するために御尽力された関係者の方々はじめ、御臨席の皆様のご健勝と益々のご発展を記念し、祝辞といたします。

平成7年11月17日

横須賀地方総監 海将 佐藤 雅

#### 「水交会会長祝辞」(中村悌次氏)

菊花薫る本日ここに「海軍の碑」除幕式が挙行されるに当たり謹ん

でお祝辞を申し上げます。

当地横須賀は明治初年、日本海軍の軍港として制定され、明治17年横須賀鎮守府が開庁されて以来、日清、日露の両戦役後、第1次世界大戦を経て先の大戦に至るまで、日本海軍の発展に伴い近代的機能を完備した東洋最大の軍港として発展いたしました。海軍工廠は、戦艦「比叻」「陸奥」空母「飛龍」「信濃」等の代表的主力艦を竣工させ、軍需部は補給のメツカになるなど、大海軍の後方支援を支える主力基地となつただけでなく、大正元年研究所として開隊した追浜航空隊はわが海軍航空の母体となり、海兵隊はもとより、術科の中核となつた各術科学校は海軍を支える人材を育成しました。

特に横須賀は名実共に東洋随一の軍港として日本海軍の発展と活躍を支えたのであります。

先の大戦においてわが海軍は開戦以来3年8ヶ月にわたり勇戦敢闘しましたが、戦い遂に利なく昭和20年敗戦と共に日本海軍は解体され、その栄光に幕を閉じました。しかしながら、わが国は戦後の荒廢の



中から立ち上がって平和と繁栄を築き、今や経済大国として国際的にも確固たる地位を占めることができました。

このことは、国民の営々たる努力によるものでありますが、遠く南冥の地や大陸の地等で散華された300万を超える戦没者の英霊の礎のもとそご加護があつたればこそと申せましょう。

戦後50年の節目の年に当たり、この横須賀の地に、所在海軍各部隊各学校等の活躍を称え、数多戦没者の慰霊と祖国の発展と平和を祈つて、この「海軍の碑」が建立されたことは誠に意義深いものがあります。

ここに、この碑の完成をお祝いし、建設に当たられた関係各位のご苦労に心から感謝申し上げ、祝辞と致します。

平成7年11月17日  
財団法人水交會 会長 中村悌次

『カード同好会のご案内』

横須賀水交會カード同好会は、1月19日汐入の総合福祉会館で新年

会を兼ね本年の活動を開始しました。参加者は最多の20名でした。ある時期参加者が7名程度まで



落ち込んだ同会も歴代の横須賀水交會会長のご指導によりここまで会員が増えますますの盛り上がりを見せ月2回のプレーを楽しんでいます。

午前10時から前半戦を開始、昼食は新年会を兼ね高田会員の挨拶に続いて屠蘇代わりのビールで乾杯し、本年の一層の活動を誓い懇談しました。

引き続き後半戦に移り都合9回戦を戦って成績は、優勝白竹盟三氏

(得点40点)、第2位高田忠氏(得点39点)、第3位石井雄次郎氏(得点21点)の激戦でした。



プレーでは果敢にスラムに挑む組、勢い余ってダウンする組と和氣藹々の一日を楽しみました。(岩岡幹事 記)

実施日：毎月第1土曜日及び第3水曜日 曜日午後1時〜5時

場所：横須賀総合福祉会館(汐入)

会費：千円

連絡先：満尾 哲郎

TEL 046・843・0506

岩岡 光

TEL 045・788・5313

『卓球部のご案内』

横須賀水交會卓球部は、現在横須賀市北体育館(横須賀市夏島町2番地)で毎月第1及び第3土曜日9時から12時まで、毎回約20名の会員が参加し和氣あいあいと汗を流しています。

卓球の運動は、身体的には過重とは思われませんが瞬発力を育て若さを維持する原動力となっていると確信しています。



なお、初級者を対象にユニークな練習を実施し、成果を挙げています。

「卓球で一緒に汗を流しませんか。」

会員の参加をお待ちしています。」

連絡先：佐々木 清一郎

TEL 0468・88・6716

「三笠保存会便り」

来館者15万人を突破

記念艦「三笠」の来館者が大幅に増加しており、昨年10月に10万人を超えましたが、去る1月29日(土)には15万人を突破しました。昨年度は37年ぶりに15万人を超え、今年度は更に上回る状況です。この15万人目の来館者はグループ旅行で来館した横浜市在住の糸谷雅一さんの長男・賢人君(小1)です。(中略)糸谷さん一家には当会理事長から15万人目の認定書や三笠文鎮など祈念の品が贈呈されました。

記念艦「三笠」では、昨年10月24日から特別展「日露戦争に見る武士道」を今年4月10日(日)までの予定で開催中です。艦内4つの砲室を使い、新渡戸稲造や乃木希典ら武士道に生きた人々を中心に「武士道」を分かりやすく解説しています。

多くの皆様のご来館をお待ちしています。(三笠保存会事務局)

「本年度就役艦艇」

- 1 護衛艦「いせ」(ひゅうが型) 3月16日 IHIMU横浜
- 2 潜水艦「はくりゅう」(そりゅうゆう型) 3月14日、三菱重工神戸

訃報

昨年11月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

前田 優(海兵73) 2月9日 (本多副会長記)

新(編)入会員(10月〜1月)

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

- 井口 一彦(有志) 向窪 敏朗(幹候29) 野瀬 泰典(航学27) 亀井 幾(幹候18) 岩間 勝男(横教166) 高橋 陽一(幹候26) 村田 隆齋

(幹候28)西山 和彦(有志) 加納 昇治(幹候29) (河村幹事記)

【編集後記】

今月号から、長崎会長の努力により、広告が入ると共に新聞をカラー印刷でお届けするようになりました。急な変更であったため、対応が十分でないところはありますが、皆様の要望に応えるべく努力しますので、引続のご愛読をお願いします。



三波工業株式会社 SAMPA KOGYO K.K.

代表取締役社長 村上 忠

本社・工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦 1-12-12 TEL 045-791-5190 FAX 045-791-5227

事業所 神戸・呉・佐世保 事務所 東京・舞鶴・大湊

まだまだ現役！

あなたの体力と正義感をお役に立ててみませんか

自衛隊OB募集中



国際警備(株) 横須賀事務所 〒238-0041 横須賀市本町1-1-4 TEL・FAX 046-825-9921